

# 2019（令和元）年度学生実態調査報告書

2020.4.01

## 1. 目的

本稿の目的は2019年9月に実施された本学（九州情報大学）の学生に関する実態調査の結果の概要をまとめることである。本調査の目的は、学生の実態を具体的に把握し、それに基づき、本学の教育システムをよりよく改善することにある。

本調査は大きく次の5テーマからなる。

- [1] 授業について
- [2] 大学教育への評価
- [3] 卒業後の進路
- [4] 日常生活について
- [5] その他

第1のテーマでは、授業全般に関して学生がどのような態度で参加しているのか、また、受講した授業を全体的にどのようなようにとらえているのかについて7問の質問をしている。第2のテーマでは、学生にとって本学の授業がどのように役立っているのかを中心に学生の判断を4問求めている。第3のテーマでは、学生がどのような希望や展望をもっているのかについての質問を4問行っている。第4のテーマでは、学生の日常生活の状況を4問質問している。最後に、全般的な感想の他、学生の意見を自由記入形式で求める質問が3問設定されている。

以下、本稿は次のように構成される。次の第2節では回答者の概要を示す。本アンケート調査は、1年生と3年生を対象に行われており、入学して半年経った時点での学生の実態と、大学生活も半分を過ぎ、大学生活に慣れると同時に自分の将来が気になる時期の学生の実態を把握できることが期待される。第3節では、回答結果を具体的に見ていくことにより、学生の実態の理解を深める。第4節では、本調査全体を展望し、学生の実態に関して、どのように理解が深まったのかを振り返る。また、本調査の課題などを検討する。最後に、付録として、本調査の質問項目を示す。

## 2. 回答者の概要

本アンケートへの回答者は99(99)<sup>1</sup>名であった。その内訳は以下の通りである。

---

<sup>1</sup> カッコ内は昨年度（2018，平成30年）のデータを示す。以下同様。

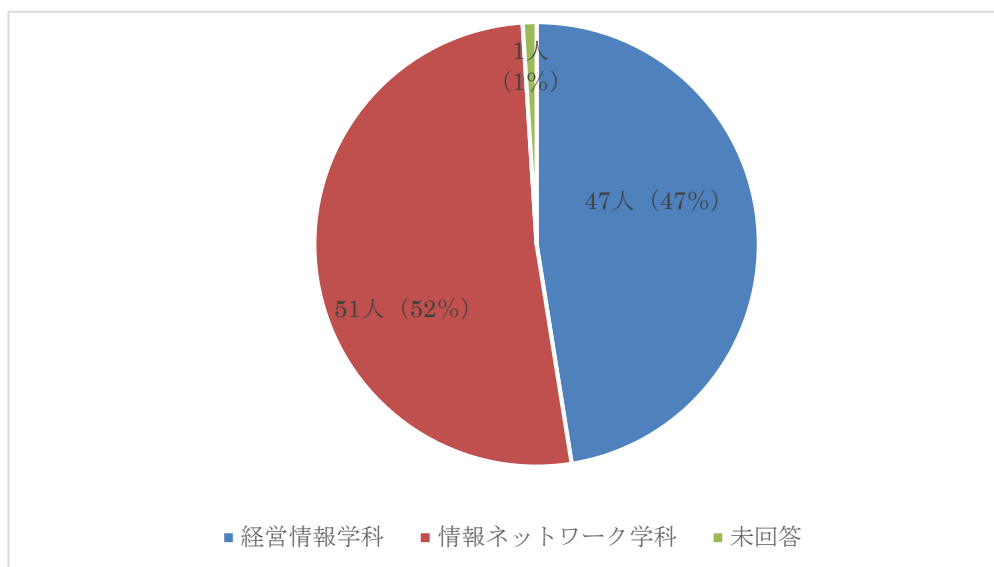


図 2-1. 学科別の回答者数と割合

図 2-1 に示すように回答者 99 名中 47%(64%)は経営情報学科に属し、52%(34%)は情報ネットワーク学科に属している。残り 1%(2%)は無回答であった。昨年度と比較すると、情報ネットワーク学科の学生による回答率が伸びている。

学年別にみると 1 年生の回答者が 71 名、72% (65 名, 66%)、3 年生が 26 名、26% (34 名, 34%) 不明が 2 名となっており、昨年度と比較すると、1 年生が約四分之三を占めている。3 年生は人数的に 3 割以下である。

性別については、男性が 56 名 (77 名)、女性が 42 名 (22 名)、不明 1 名である。

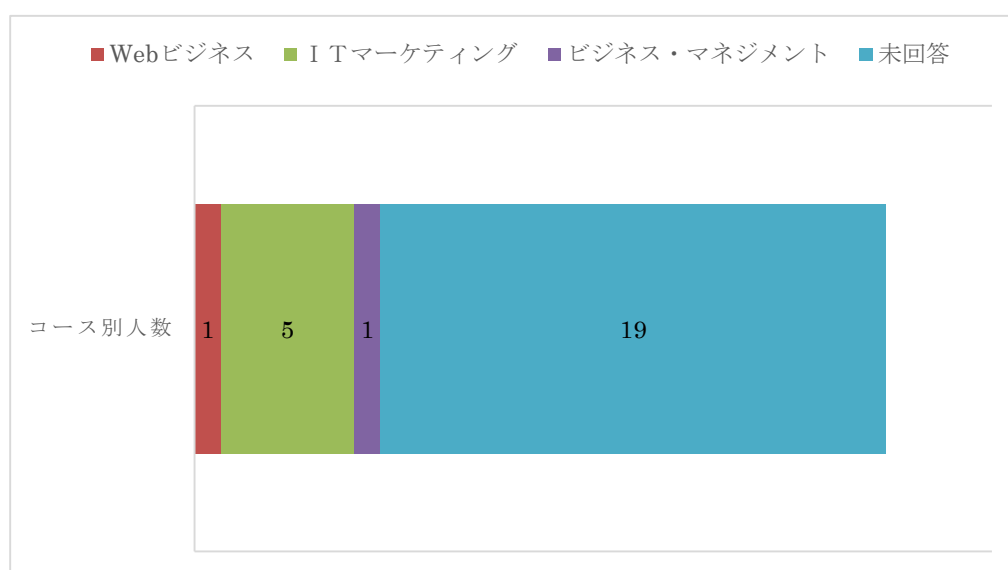


図 2-2. コース別の回答者数の割合 (3 年生)

図 2-2 にコース別の回答者数とその割合を 100%積み上げグラフで示す。1 年生はコースの選択を行っていないため、3 年生のみのデータとなっている。

回答者 26 名中 19 名、73%(76%)もの回答者がコース名に回答していないため、コース別の正確な分析はできない。

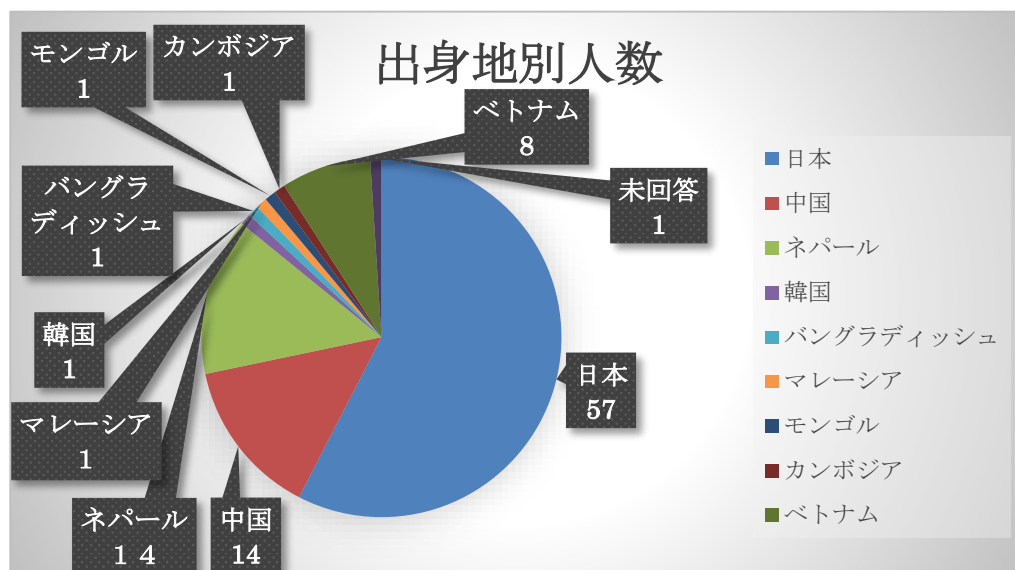


図 2-3. 出身地の内訳

出身別の内訳を図 2-3 に示す。日本人学生 57 名、58% (74 名、74%) に対して日本以外からの留学生は全体で 41 名、41% (18 名、18%) となっている。未回答者は 1 名である。昨年度と比較すると、留学生からの回答が大幅に増加している。

日本以外と回答した学生の内訳をみると、留学生 41 名中、中国と並んでネパールがそれぞれ 14 名と最も多く、それに引き続きベトナムが 8 名、韓国、マレーシア、バングラディッシュ、モンゴル、カンボジアがそれぞれ 1 名ずつとなった。

昨年度と比較すると、主にベトナムからの留学生が増加している。昨年引き続き、多国籍化、多文化化が進行中であり、今後これらの留学生への支援を充実させることが課題となろう。

### 3. 回答結果

本節では、各質問項目への回答状況を見る。質問全体は、授業に関するもの、教育に関するもの、進路に関するもの、進路に関するもの、生活に関するもの、その

他と5つのグループから構成されている。

### 3.1. 授業に関する質問

**問1** 大学に入ってから次のような経験はありますか、またそれは有用でしたか。

本問は次の4つの項目についての経験の有無と経験している場合の評価を求めている。

- 入学時、各学年初め、学期初めのオリエンテーション
- 高校での未習科目を学ぶための補修的な科目や大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目(大学基礎総合、コミュニケーションと自己発見など)
- 就職や将来のキャリアをテーマとした科目(キャリアデザイン入門、キャリアデザインなど)
- インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）

経験した場合の選択肢は、

1. 有用ではない
2. どちらともいえない
3. 有用
4. 非常に有用

の4つである。

本問に対する回答結果を図3-1に示す。

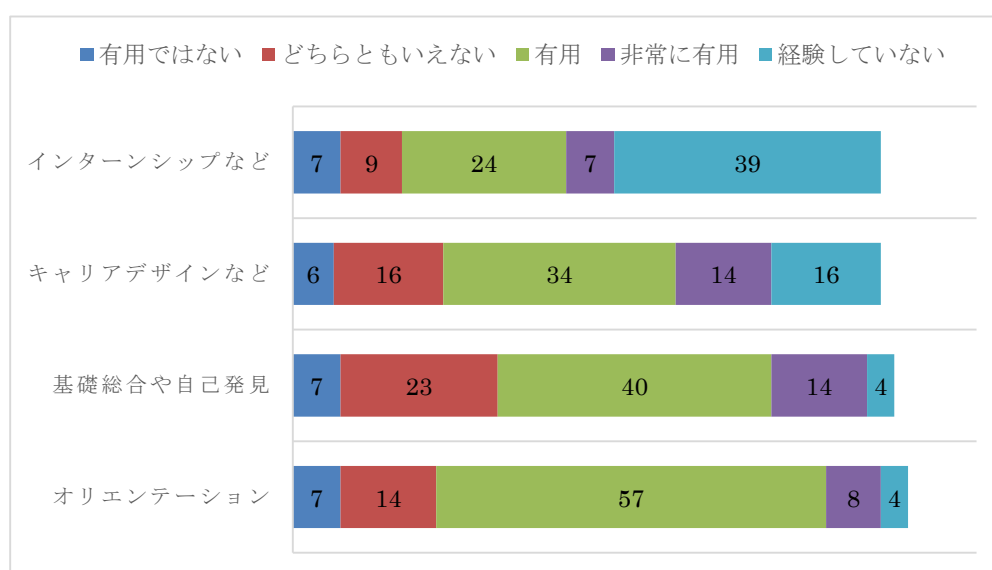


図3-1. 経験に関する回答結果

オリエンテーションと補習的科目に関しては、学生達は概ね出席している。経験している学生の評価として、約 7 割かそれ以上の学生が有用もしくは非常に有用と評価している。インターンシップやキャリアデザインについては、上記の 2 項目より、参加した学生に限られるものの、参加した学生の有用感が高い。出来るだけ多くの学生に参加を求める指導にもっと力を入れることが引き続き求められるであろう。

## 問 2 あなたにとって意味があったと思う授業を思い出してください。

本問は、学生にとって意味があった、有用であった、と感じられる授業がどのようなものであるかに関して学生自身の認識を問うものである。問は A,B の 2 つに分かれ、A では、割合を、B では特徴を求めている。

A. それはこれまで受けた授業の何割くらいですか。基礎総合科目、専門教育科目の別にお答えください。

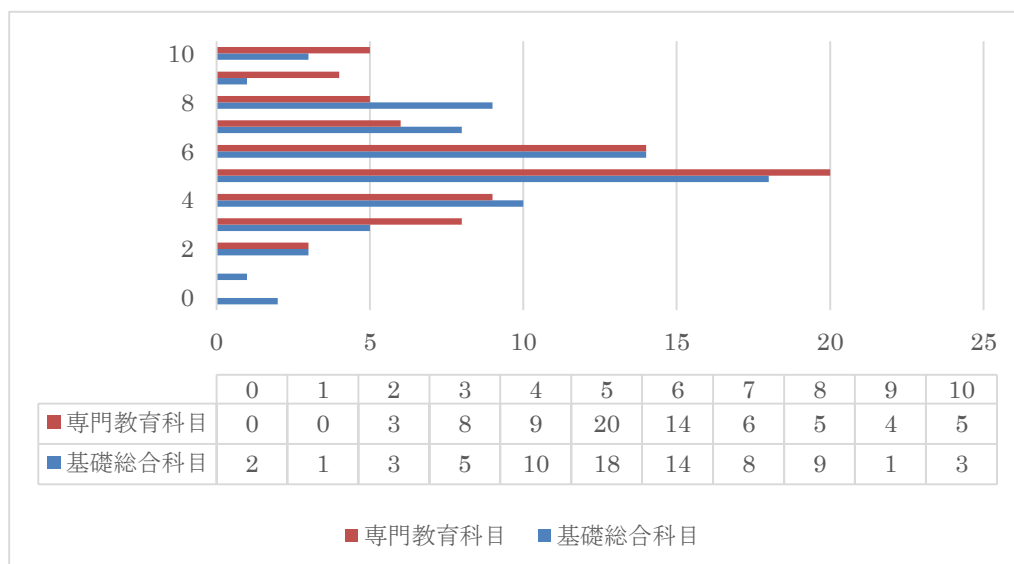


図 3-2. 意味のあった授業の割合別の人数分布

本問の回答結果を図 3-2 に示す。本問への回答は基礎総合科目、専門教育科目のいずれの場合も、昨年同様 5 割という回答への頻度が大きい。

専門教育科目は基礎総合科目と比較して6割～8割の頻度の回答が多く、学生がその意義をより強く認識していることを示している。

**B. それらの授業にあてはまる特徴はどんなことですか（〇はいくつでも）。**

本問は学生が「意味があった」と考える、その中身に関する質問である。基礎総合科目、専門教育科目毎に、次のいずれに該当するかを複数選択項目による回答を求めている。

- 最先端の研究成果を披露してくれた
- 確実に学問の基礎を教えてくれた
- 社会や現実との関わりから学問の意義を教えてくれた
- 将来に役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた
- 資格の取得に役立つ情報やテクニックを教えてくれた
- 教え方がうまかった
- 自分自身や将来やりたいことを考えるきっかけになった

その結果を図3-3に示す。

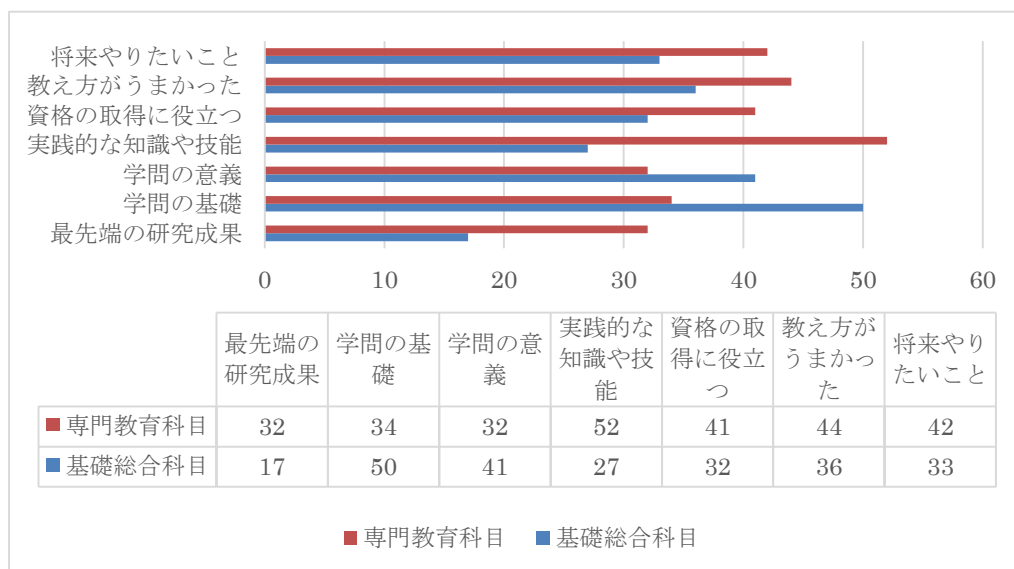


図3-3. 意味があった科目の特徴の選択数の割合

図3-3によると、基礎総合科目においては、「学問の基礎」が50名と最も頻度が高い。それに引き続き、「資格の取得に役立つ」、「学問の意義」、「資格の取得に役立つ」という項目が多く選ばれている。

一方、専門教育科目においては、「実践的な知識や技能」の項目（52名）が最も選択されており、それに引き続き、「教え方が上手かった」、「資格の取得に役立つ」が選ばれている。専門教育科目に対しては、まんべんなく各項目が一定数以上選択されていることから、学んだことが直接役立つような知識・技能と共に、より幅広く専門的に学びたいという気持ちが見て取れる。

**問3** これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。

本問は、授業形態に関する学生の認識を求めるものである。全体が10割にならない回答に対しては、合計に対する割合として補正してある。

授業形態は、次の6種に分類されている。

- (100人以上) 講義
- (50人以上 100人未満) 講義
- (20人以上 50人未満) 講義
- (20人未満) 演習・ゼミ 実験・実習

本問への回答結果を図3-4に示す。

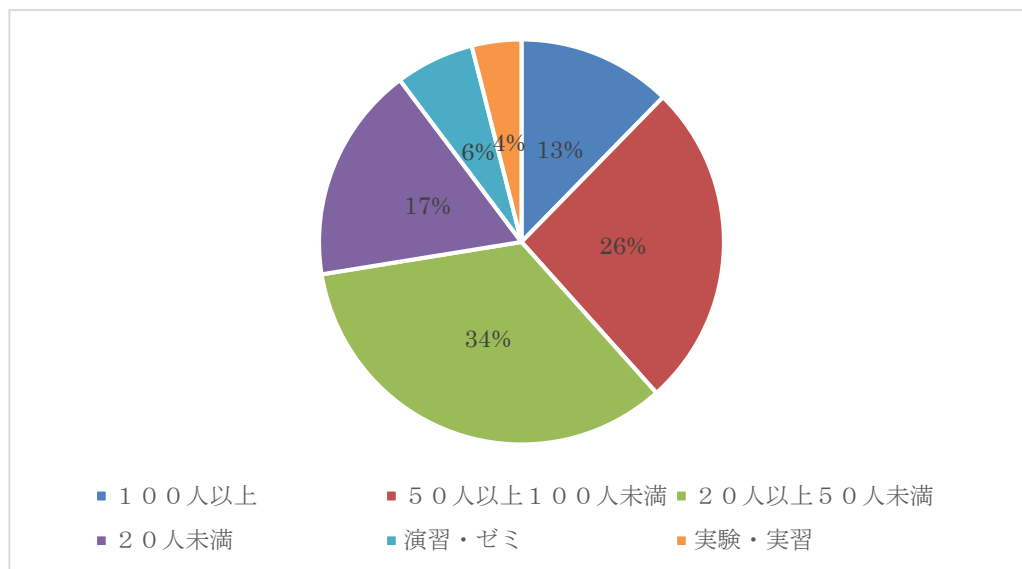


図3-4. 講義形態への回答数の割合

学生からの回答によると、20人以上50人未満の受講生を対象とした講義が全体の34%と最も多く、それに続いて50人以上100人未満の講義が26%、20人未満の講義17%となっており、100人以上の講義スタイルは全体の13%でしかない。概ね少人数制の講義が増加している。この傾向も昨年度と同様であった。

**問4** これまで受けた授業では、下のようなことがどれくらいありますか。またそれは、必要ですか。

本問は、授業スタイル（あり方）に関して、どの程度経験したか、その必要性はどうかに関する質問項目である。授業スタイルに関しては、次の6項目が設定されている。

内容：

- 授業内容に興味をわくよう工夫されている
- 理解がしやすいよう工夫されている
- 出席が重視される
- 最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される
- 授業中に自分の意見や考えを述べる
- グループワークなど、学生が参加する機会がある

これらの質問に対して、回答は次のようになっている。

経験について：

1. ほとんどなかった
2. あまりなかった
3. ある程度あった
4. よくあった

必要性について：

1. 必要ではない
2. ある程度必要
3. 非常に必要

本問に関する回答結果（評価の平均値）を図3-5に示す。



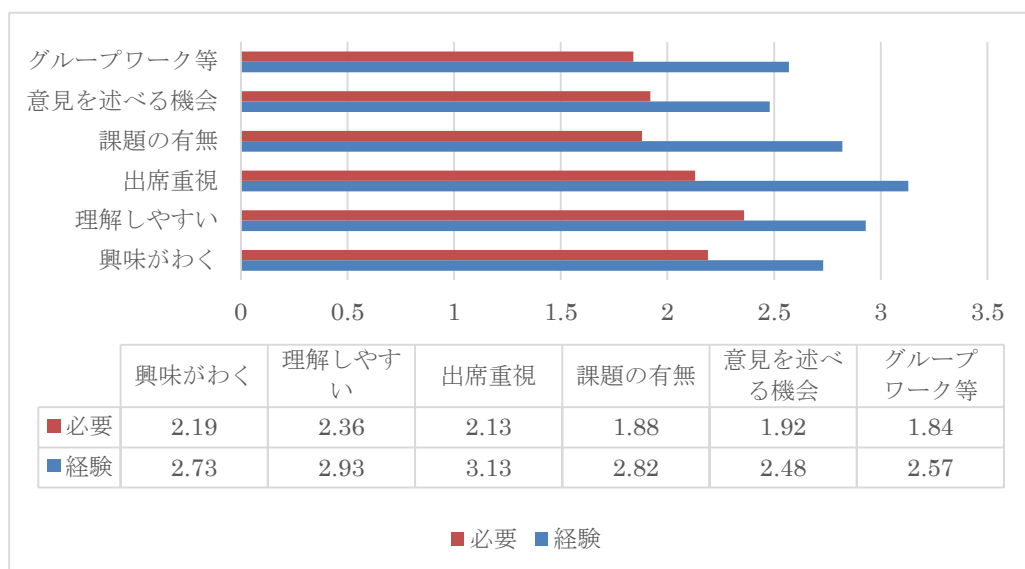


図3-5. 授業スタイルに対する経験と必要性についての回答結果（経験に関しては最大値4での平均値・必要性に関しては最大値3での平均値）

経験に関しては、全体的に2.57から3.13の範囲になっている。すなわち、大体「ある程度あった」程度の回答結果になっている。その中で、出席重視の授業が最大値となっており、次が理解しやすい授業の項目である。本学の授業は、出席重視で理解しやすいと学生が感じていることを示している。昨年度と比較すると、「授業中に自分の意見や考えを述べる」や「グループワーク等」への経験値も伸びており、本学におけるアクティブラーニング推進の結果が徐々に現れ始めていることを示唆しているのではないだろうか。

一方、必要性に関しては、値が大きいのは、最初の3項目、すなわち、「理解しやすい工夫」や「興味がわくような授業の工夫」、そして、「出席重視」が学生達からの要望である。つまり、学生が必要だと感じるのは出席すれば単位取得に繋がる、興味を持って理解しやすい授業のようである。「理解しやすい授業」に関しては、必要性も経験も最大であり、学生のニーズに応えられていると言えそうである。これらの傾向は昨年と変わらない。

#### 問5 あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか。

本問は、授業に対する学生自身の取り組みを問うものである。次の5項目に関して、4つのレベルでの回答を求めている。

評価内容：

- 興味のわからない授業でもきちんと出席する
- なるべく良い成績をとるようにしている
- グループワークやディスカッションに積極的に参加している
- 先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている
- 必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる

評価のレベル：

1. あてはまらない
2. あまりあてはまらない
3. ある程度あてはまる
4. あてはまる

図3-6に評価結果(平均値)を示す。良い成績を取るための努力に関しては3.19、出席に関しては、3.06という値になっており、どちらも「ある程度あてはまる」に寄った回答となっている。

それに対して、評価値が低いのは、質問や相談、そして、予習・復習である。これらはいずれも2.51から2.63の評価値となっており、本学の学生において、積極的な学習態度や自ら学ぶという意識や行動に課題があることを示している。図3-5では、本学におけるアクティブラーニング推進の結果が徐々に現れ始めているかもしれない結果が多少見て取れたが、よりアクティブラーニングを進めるためには、もっと質問・相談し、もっと予習・復習するカルチャを養成していく必要がある。

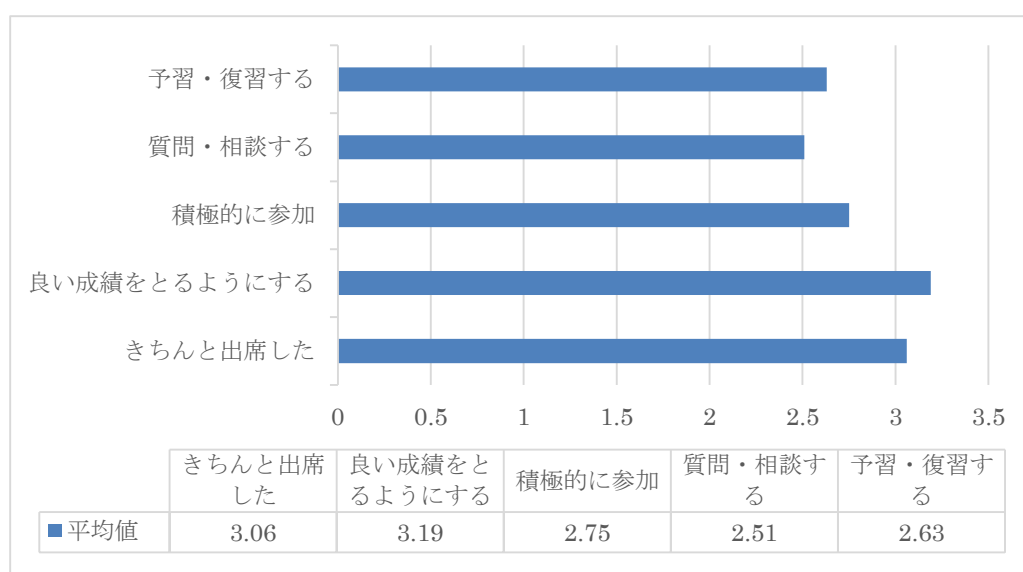


図3-6. 授業への取り組みに関する学生の自己評価

問6 大学での学び方について、あなたの考えに近いものを選んでください。

本項目は、大学での学びに関する学生の考えを問うものである。質問項目はAの項目と、その対極に当たるB項目を提示し、どちらに近いかを選ぶようになっている。

A 授業はとり方があらかじめ決まっている方がよい

B 授業は自分で好きなようにとりたい

A 授業の意義や必要性を教えて欲しい

B 授業の意義や必要性は自分で見出したい

A 授業の中で必要なことは全て扱って欲しい

B 授業はきっかけで、後は自分で学びたい

A 自分のレベルにあった授業をして欲しい

B 授業は難しくてもチャレンジングな方がいい

A 専門以外のことも広く学びたい

B 専門分野を深く学びたい

回答は以下の4項目からの選択となる。

1. Aに近い

2. ややAに近い

3. ややBに近い

4. Bに近い

本問に対する回答結果を図3-7に示す。

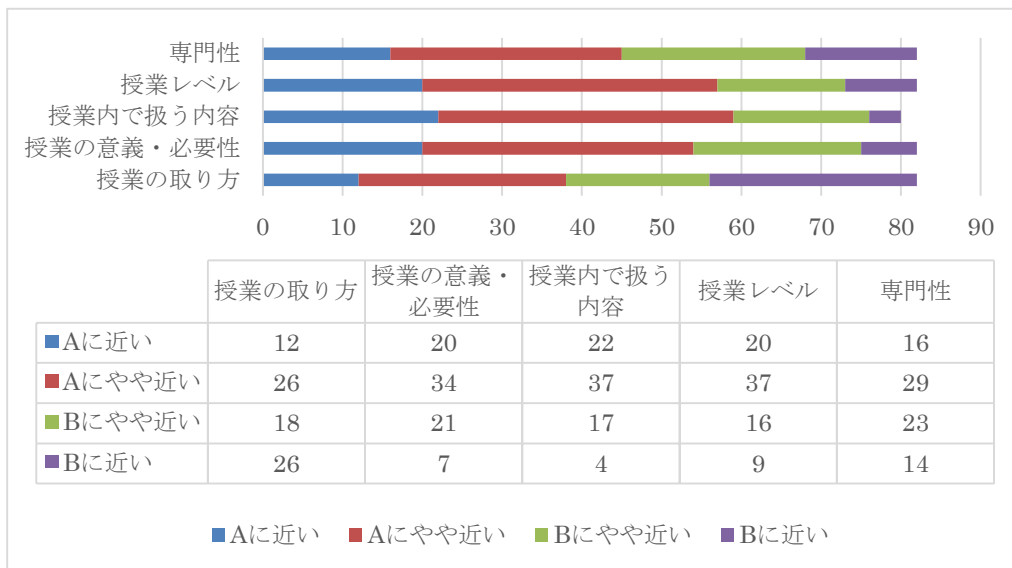


図3-7. 大学での学び方に関する意識への回答結果（人数）

A寄りの結果となったのは、値の大きい順に、「必要なことは全て扱って欲しい」と「授業の意義や必要性を教えて欲しい」、そして、「自分のレベルにあった授業をして欲しい」という項目であった。これは昨年と同じ傾向である。

授業の取り方に関しては、あらかじめ決まっているよりも、自分で好きなように取りたいという考えが優勢である。

「専門以外のことも広く学びたい」か、それとも「専門分野を深く学びたい」か、の項目に関しては、昨年と異なり、「専門以外のことも広く学びたい」という考えの学生が優勢である。

### 問7 あなたの成績について教えてください。

本問は、学生が自分の成績をどのように認識しているのかを問う設問である。

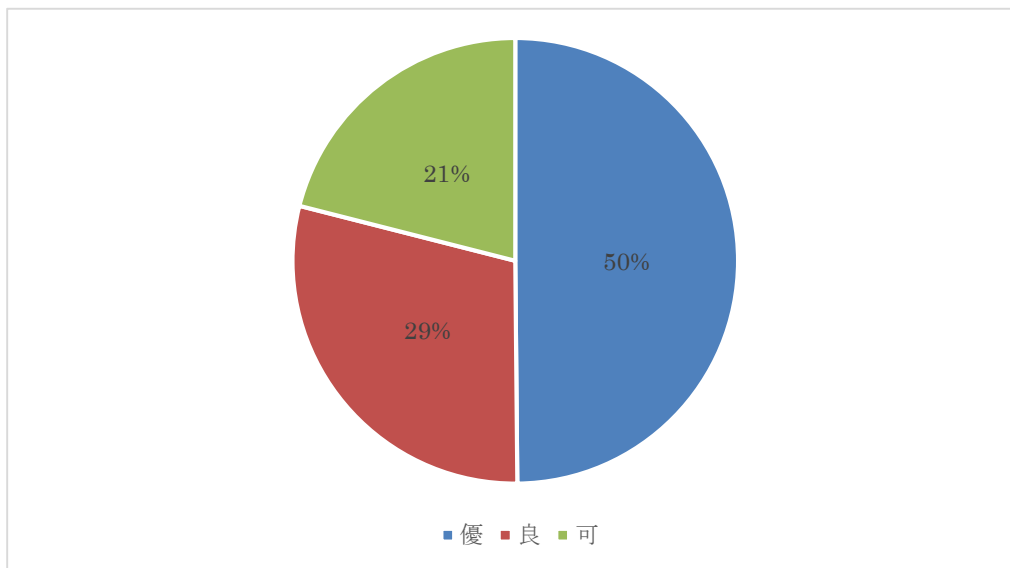


図 3-8. 成績に関する学生の自己認識

成績に関する学生の自己認識への回答結果を図 3-8 に示す。学生が自己判断した、優、良、可、別にどの程度の割合結果は、半分 50%が優であり、良 29%、可 21%となっている。本結果は、昨年の数値と全く同じものとなっているが、学生の実態と併せて考えてみると、実際の成績というよりも願望も交えた認識値であるとみなすのが妥当であると考えられる。

### 3.2. 教育に関する質問

本項目は大学教育への評価を問うものである。

問 8 次の点で大学の授業は、どのくらい役立っていると思いますか。また自分の実力はどの程度あると思いますか。

本問は、大学の授業に関する 9 項目に対して、これまでの授業経験がどの程度役立っているか、そして、それに対する自分の実力はどの程度なのかへの回答を求めるものである。

質問項目は以下の通りである。

- 将来の職業に関連する知識や技能
- 専門分野での知識・理解
- 専門分野の基礎となるような理論的理解・知識

- 論理的に文章を書く力
- 人にわかりやすく話す力
- 外国語の力
- ものごとを分析的・批判的に考える力
- 問題をみつけ、解決方法を考える力
- 幅広い知識、ものの見方

各質問項目に対して、授業経験および自分の実力に関して次のような項目から回答を選択する。

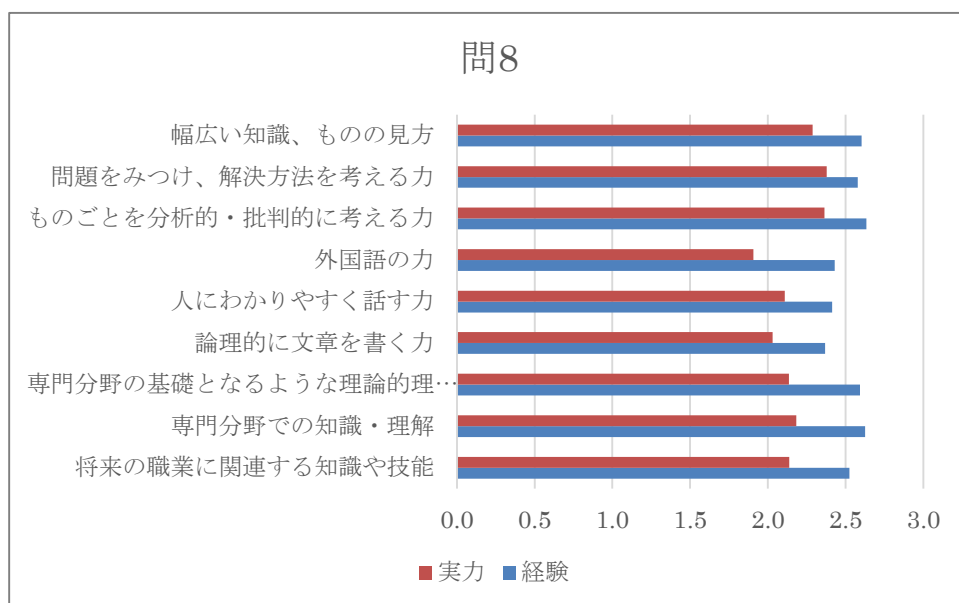
これまでの授業経験：

1. 全く役立っていない
2. 少しは役立っている
3. 役だっている
4. 多いに役立っている

自分の実力：

1. 不十分
2. やや不十分
3. やや十分
4. 多いに十分

本問に対する回答結果を図 3-9 に示す。



授業に関しては、全ての項目で2.3から3の範囲の値であり、概ね「2. 少しは役立っている」と「3. 役立っている」の中間の評価となっている。もっとも高い評価となっているのは、ほぼ拮抗するかたちで「幅広い知識、ものの見方」、「ものごとを分析的・批判的に考える力」、「専門分野の基礎となるような理論的理解」「専門分野での知識・理解」であり、それと僅差で、「問題を見つけ、解決方法を考える力」、「将来の職業に関する知識や技能」が続く。逆にもっとも評価が低いのは、「外国語の力」であり、それに「論理的に文章を書く力」、「人にわかりやすく話す力」が続く。

昨年までと比較すると、「問題を見つけ、解決方法を考える力」に関する授業が「不十分」から「おおむね役に立っている」の域まで伸びており、他の能力に関しても、総じて評価が伸びている。本学のアクティブラーニングへ向けた取り組みが功を奏していると考えられるのではないだろうか。

実力に関しては、「外国語の力」を除いて、大体2から2.5の間であり、「少しは役立っている」と自己判断している。値がもっとも小さいのは外国語の実力であり、英語などの語学力の必要性は感じつつも実力不足を認識していることがうかがえる。本学は様々な国からの留学生が在籍しており、外国語を学ぶには良い環境であると言えるのだが、この多言語・多文化環境を生かした外国語学習への動機付けがもっと必要である。しかしながら、全体的には学生が自分の実力に関して感じている評価は、数値的に0.5ポイントほどの伸びがみられる。この傾向が今後も続くかどうか注視していきたい。

### 問9 あなたの大学について次の点でどのくらい満足していますか。

本問は、本学について、授業以外の8項目に関する評価を質問している。質問項目は以下の通りである。

- 授業外での教員との接触（オフィスアワー、ゼミを含む）
- 図書館などの学習施設
- 実験・実習などのための施設
- 就職指導（CDC）
- 就職指導（ゼミ教員）
- 学習・生活面でのカウンセリング
- 学習以外の大学での経験
- 大学生活全般

回答は次の4つから選択する。

1. 不満
2. ある程度不満
3. ある程度満足
4. 満足

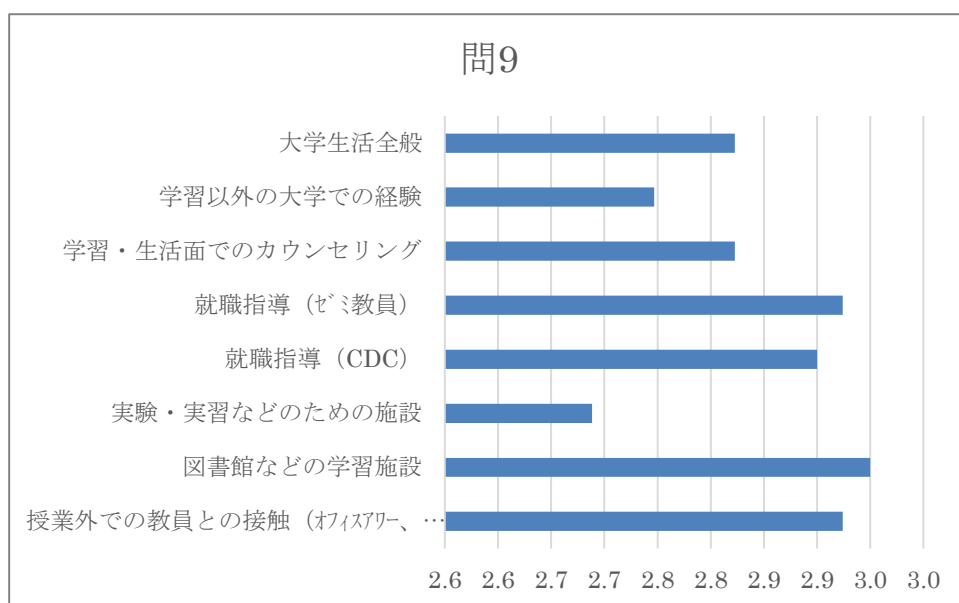


図 3-10. 大学に対する満足度の回答結果



本問への回答結果を図 3-10 に示す。いずれの項目に関しても、評価値は 2.7 以上である。すなわち、最低でも「2. ある程度不満」と「3. ある程度満足」の間であるが、しいていうと「3. ある程度満足」という評価となる。学生の満足度が最も高いのは、「図書館などの学習施設」と「就職指導（ゼミ教員）」であり、教員の方は 3.0 に及ぶ評価値となっている。その次に高いのは、「授業外での教員との接触」で、「就職指導（CDC）」が続く。ここまではいずれも 2.9 を超える高評価である。

逆に評価値の低い項目としては、「実験実習のための施設」、「学習以外での大学の経験」である。不満である具体的な内容は不明であるものの、教室の設備や食堂などの厚生施設への不満が表れているのかも知れない。今後は不満の具体的な項目を確認できるように質問項目を考える必要があると思われる。

昨年度と比較すると満足度は幾分減少しているものの、全体的な傾向は共通である。

#### 問 10 大学在学中の目標として、どのようなことが重要ですか。

本問は、7つの目標を示し、それらが、学生にとってどの程度重要であるかを回答するよう求めている。回答を求めた目標は次の通りである。

- 将来の仕事に活かせる能力を身につける
- 資格試験・公務員試験などに合格する
- 専門分野の知識・理解を深める
- 広い教養、ものの見方を身につける
- 自分の将来の方向をみつける
- 社会人になるまでの時間をエンジョイする
- 有意義な人間関係を築く

これらに関する評価の選択肢は以下の通りである。

1. 重要でない
2. 少し重要
3. ある程度重要
4. 重要
5. 最も重要

本問に対する回答結果を図 3-11 に示す。

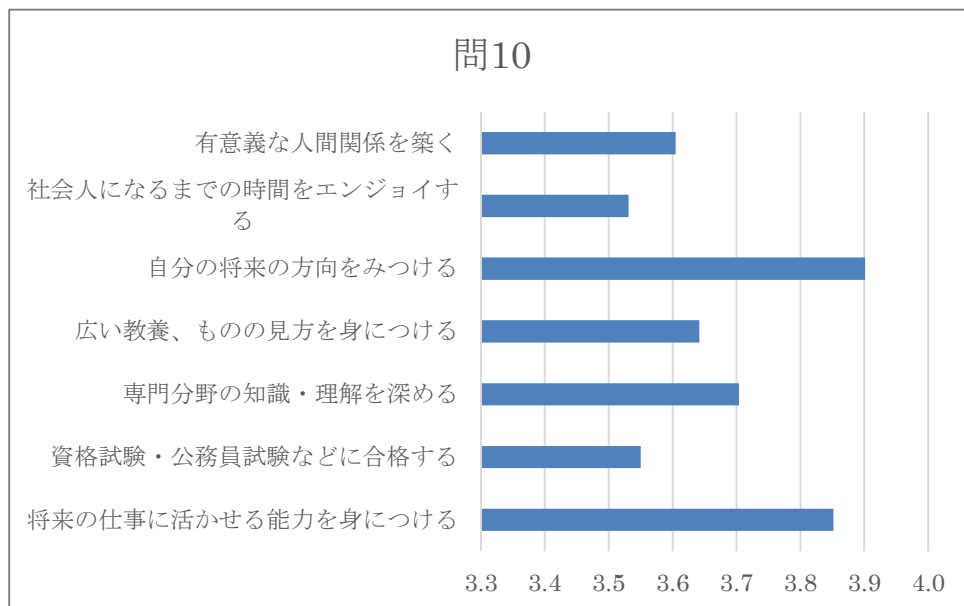


図 3-11. 大学在学中の目標としての重要性

いずれの目標項目に対しても、評価の平均値は 3.5 から 3.9 の間となっている。したがって、「3. ある程度重要」と「4. 重要」の間に位置する。もっとも値が大きいのは、「自分の将来の方向を見つける」であり、ほぼ「4. 重要」と評価されている。次が「将来の仕事に活かせる能力を身につける」となっており、大学在学中に将来の方向性を見定め、就職に備えるための具体的な能力を身につけたいという学生の意識が表れている。

本項目に関しても全体として昨年度との大きな違いはないが、その中で、「資格試験・公務員試験などに合格する」の値が 0.3 ポイントほど減少しているのが目につく。自分の将来の心配はしても、具体的な計画や方策を探るまで積極的になれない傾向が表れているのかも知れない。

### 問 1 1 大学の授業とあなたとの関係についてどう思いますか。

本問は、大学の授業がどの程度学生の将来に関連しているかに関する学生の意識を知るための設問である。次の 3 つの項目に関する評価を求めている。

- 卒業後にやりたいことは決まっている
- 大学での授業はやりたいことに密接に関わっている
- 授業を通じてやりたいことを見つけない

これらの項目に対する回答の選択肢は以下の通りである。

1. 全くあてはまらない
2. あまりあてはまらない
3. ある程度あてはまる
4. よくあてはまる

本問への回答結果を図 3-12 に示す。

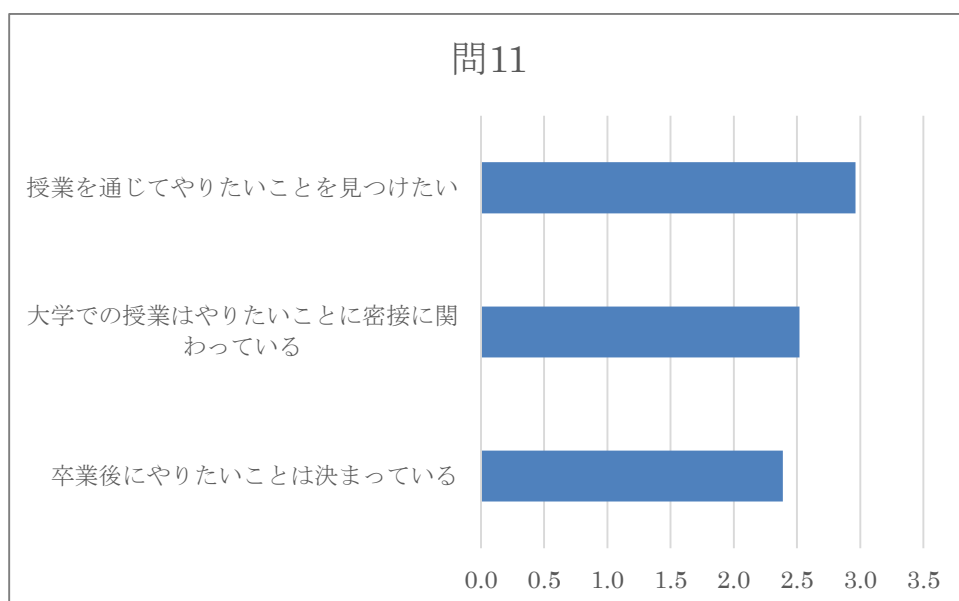


図 3-12. 大学授業と学生への関係

いずれの評価値も 2.4 から 2.9 の間である。すなわち、「2. あまりあてはまらない」と「3. ある程度あてはまる」の間であり、どちらかというところ「ある程度あてはまる」という結果となった。特に、「授業を通じてやりたいことを見つけたい」という項目は 2.9 となり、学生の授業への期待と見ることができる。

授業との関係に関しては、2.5 という結果になっており、昨年とほぼ同じ傾向が見て取れる。「卒業後にやりたいことは決まっている」に関しては、2.4 で去年よりも 0.3 ポイント低い。まだやりたいことが見つからない学生の人数が去年より多いがために、「授業を通じてやりたいことを見つけたい」学生の期待が増しているのだと考えることもできる。

### 3.3. 進路に関する質問

本質問項目は、卒業後の進路に関する希望や考えを問う項目である。

## 問 1 2 卒業後の進路についてどのような希望をもっています（いました）か。

本項目は、卒業後の進路についての希望を大学入学時点と現時点においてどうであったのか、どうなのかを問うものである。また、進路が決定しているか否かについても質問している。

質問項目は以下の通りである。

- 民間企業に就職する
- 公務員になる
- 教師、税理士、中・上級情報処理技術者などのある程度高度な専門職につく
- 自営など上記以外の形で就職する
- 大学院などに進学する（海外含む）
- その他
- 決めていない

これらの項目に関して以下の選択肢の中で該当するものにマークを付けて回答される。

- 大学入学したとき（いくつでも○）
- 現在の希望（いくつでも○）
- 決定している（一つだけ○）

本項目に対する回答結果を図 3-13 に示す。

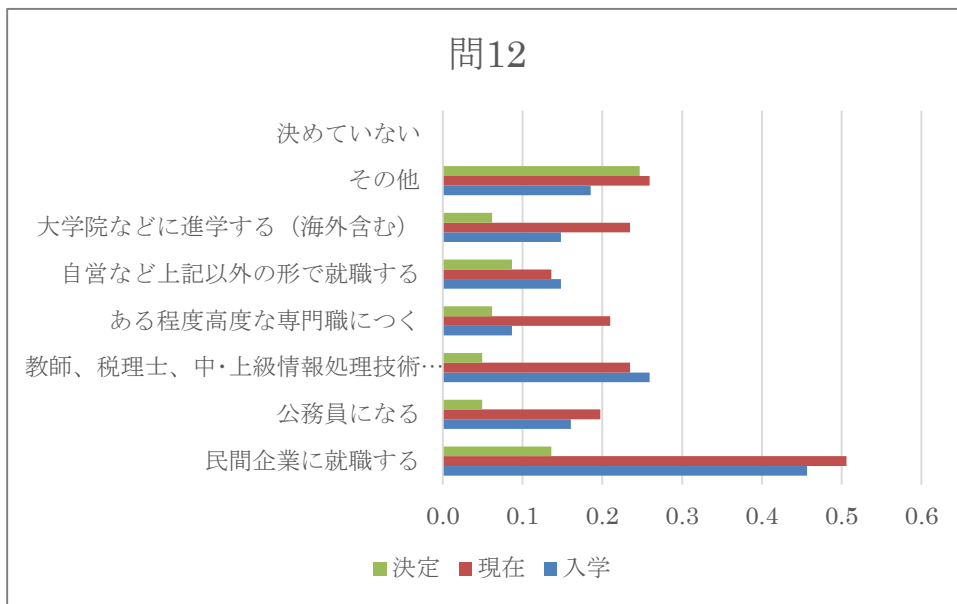


図 3-13. 卒業後の進路に関する希望

本結果より、現在の希望としては、民間企業への就職を希望する学生が最も多いことが分かる。

専門職の希望者は入学時と比較して現在の方がかなり増加している。この現象は昨年度も同様である。入学時には将来の選択肢として考慮に入れていなかった専門職が入学後、魅力的な選択肢として認識されるようになったということであろう。

### 問 1 3 就職する上で、次の点はどの程度重要とご思いますか。

本問は、就職する上でどのようなことが重要であると学生が考えているかを問うものである。項目は次の通りである。

- どの大学（大学院）を出たかということ
- どの分野を専攻したかということ
- 個人としての能力

これらの項目に対して次の項目から選択する。

1. 重要ではない
2. ある程度重要
3. きわめて重要

本問への回答結果を図 3-14 に示す。

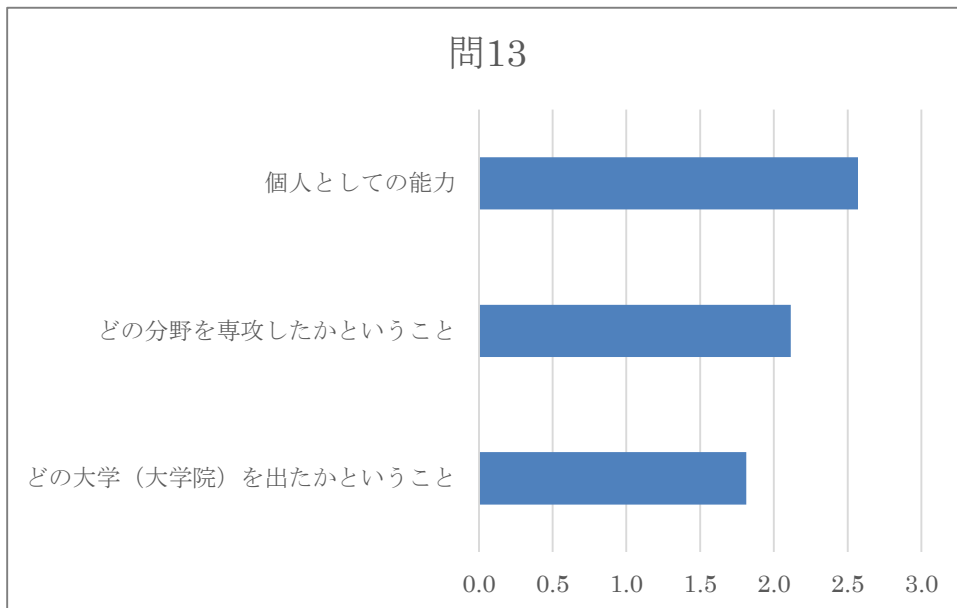


図 3-14. 就職する上で、どの程度重要であるかに関する回答結果

回答結果を見ると、学生達は、個人能力がもっとも重要であると考えている。評価値は「2. ある程度重要」と「3. きわめて重要」の間にあり、「きわめて重要」の方により近い。それと比較して、どの大学や大学院を出たかは、さほど重要ではないと考えている。この結果は昨年度とほぼ同じである。

**問 1 4** 仕事にどのようなことを望みますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

本問は、学生が仕事に対してどのようなことを望んでいるのかを問う項目であり、問 6 と同様に、A 項目と、それと対照的な B 項目のいずれに近いかを答える形式での設問となっている。質問項目は以下の通りである。

- A チームで仕事をして成果を分かち合う
- B 個人の努力が成果に結びつく
  
- A あらかじめ決められたことを形にする
- B 新しい商品やサービスを生み出す

- A 年齢や経験を重視した給与
- B 個人の業績や能力が大きく影響する給与

- A 残業が多くてもキャリアアップできる
- B 残業が少なく自分の時間が持てる

- A 一つの仕事で専門家になること
- B いろいろな仕事を幅広く経験できること

これらの項目に対して次の4項目から選択することを求めている。

1. Aに近い
2. ややAに近い
3. ややBに近い
4. Bに近い

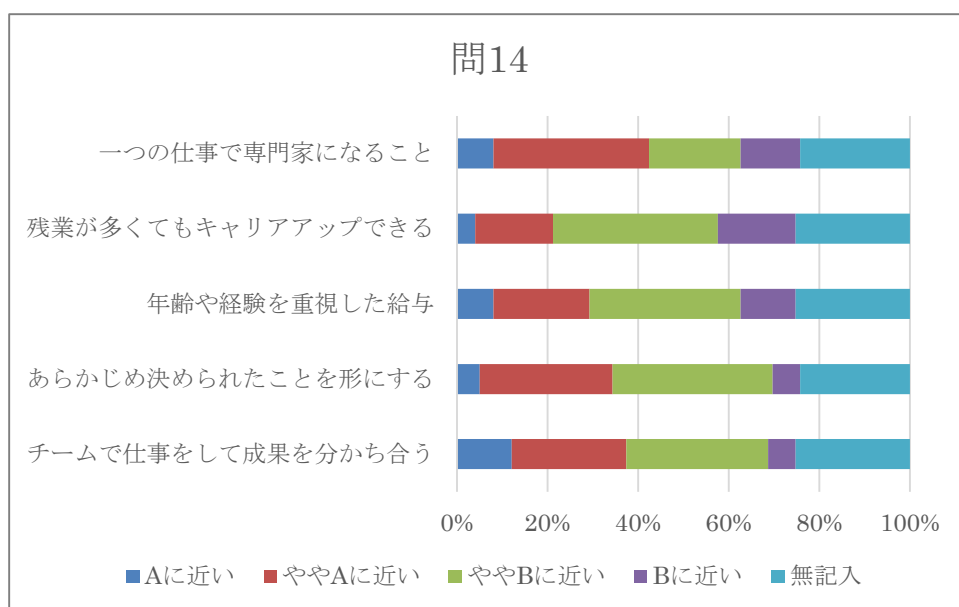


図 3-15. 仕事に望むことに関する回答結果

本問への回答結果を図 3-15 に示す。昨年の調査結果によると、それぞれの項目で結果が拮抗するか、全体的にはわずかに A を選んだ学生が多く、全体的に仕事に関しては保守的な考えを持つ学生が多い傾向が見て取れた。今年度の学生の傾向を見てみると、「一つの仕事で専門家になること」と「いろいろな仕事を幅広く経験できること」はほぼ拮抗しているが、わずかに「一つの仕事で専門家に

なること」が多い。「残業が少なく自分の時間が持てる」ことを希望する学生の割合は昨年同様に多い。給与に関しては、「個人の業績や能力が大きく影響する給与」を望むものが多いが、これは、例年と同じである。若者である学生が、年功序列をあまり好ましいと思わないのは納得できる意見であるが、おそらく、20年後に同じ質問をすれば解答の傾向は変わるかもしれない。全体的に昨年に比べて、仕事に関しては保守的な考えを持つ学生が少なくなっている傾向が見て取れる。

### 問15 大学を卒業後のキャリアについてどう考えていますか。

本問は、卒業後のキャリアについての展望を9項目に関して質問している。その内容は以下の通りである。

- すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる
- すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない
- すぐに大学院などに進学する
- 就職してから大学院への進学を考える
- 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない
- 卒業後すぐには就職しなくてもよい
- 最初の就職先にできるだけ長く勤める
- 何年かして転職や独立をする
- 結婚・出産したら仕事をやめる（女性のみ）

本質問項目に対する回答項目は以下の通りである。

1. そう思わない
2. ある程度思う
3. そう思う

本問への回答結果を図3-16に示す。中間値である「2. ある程度思う」より強く思う項目は、まず「最初の就職先にできるだけ長く勤める」であり、それに続き、「直ぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる」となっている。両者を合わせると、転職を繰り返すよりも、安定した職場で長く働きたいという考えが表れている。これはここ数年の共通の傾向となっている。

一方、値が低い、すなわち、思わない程度が大きいのは、まず、「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」、「すぐに大学院などに進学する」、それに続いて「就職してから大学院への進学を考える」であり、将来進学することは考



えない学生が多いようである。「卒業後すぐには就職しなくてもよい」「すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない」の項目も昨年同様「思わない」学生が多い。多くが将来進学することはキャリアとは考えず、また卒業後すみやかに、いずれかの企業等に安定した就職を希望しているということがわかる。また、女性についていえば、結婚・出産後も仕事を続けたいと思う学生が半数を占める傾向が続いている。

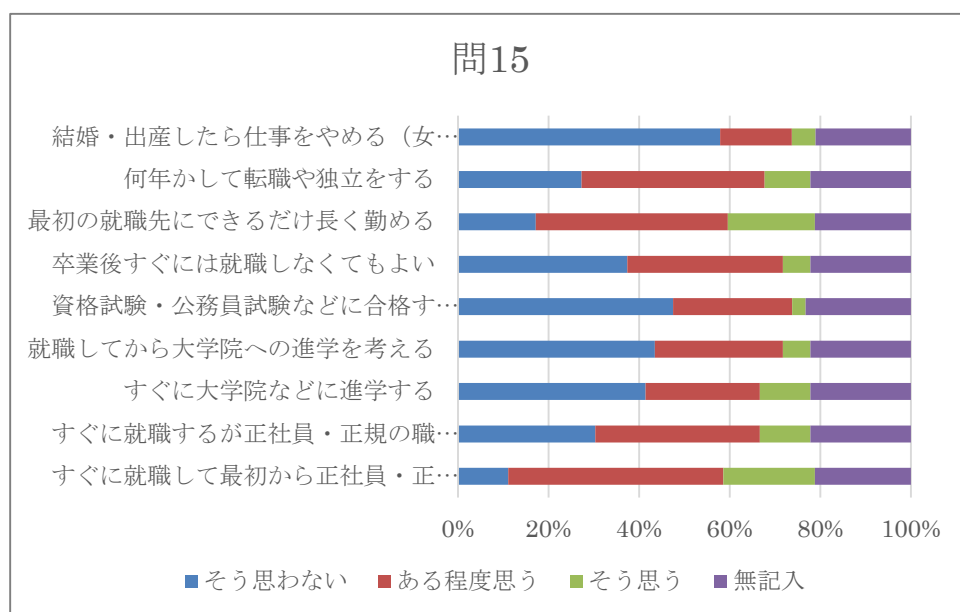


図 3-16. 大学卒業後のキャリアに関する回答

### 3.4. 日常生活に関する質問

本項目は、学生が日常どのように過ごしているのかに関する質問を行っている。

**問 16** 今学期は、大学にはどの程度きていますか。また授業にはどれくらい出席していますか。

本項目は、学期中において、週あたり何日通学しているのか、また、授業への出席率がどの程度なのかを問う質問項目である。

図 3-17 に週当たりの通学日数の割合を示す。講義が行われている日数が 5 日であるので、6 日および 7 日を回答した学生は土日も登校していることになり、講義以外のクラブ活動等と思われる。8 割程度の学生が 5 日あるいは 4 日通学している。

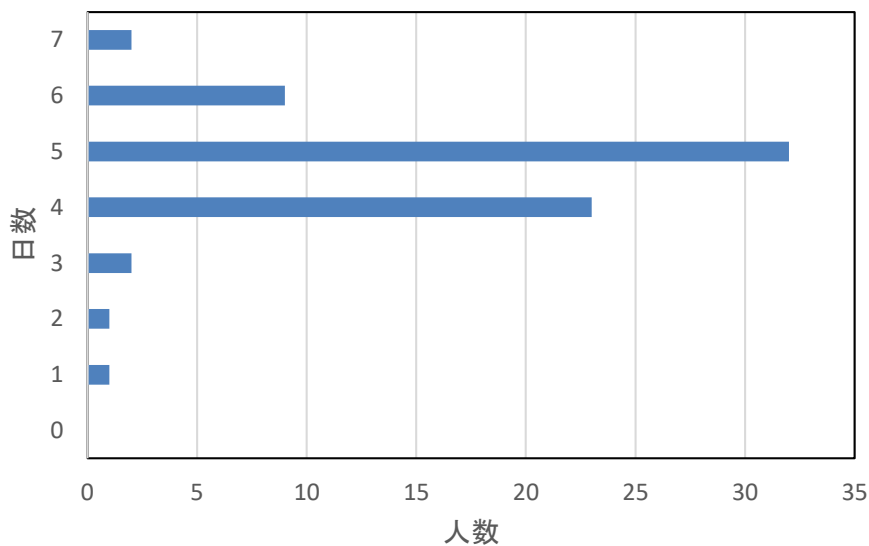


図 3-17. 週あたりの通学日数

授業への出席率に関する結果を図 3-18 に示す。

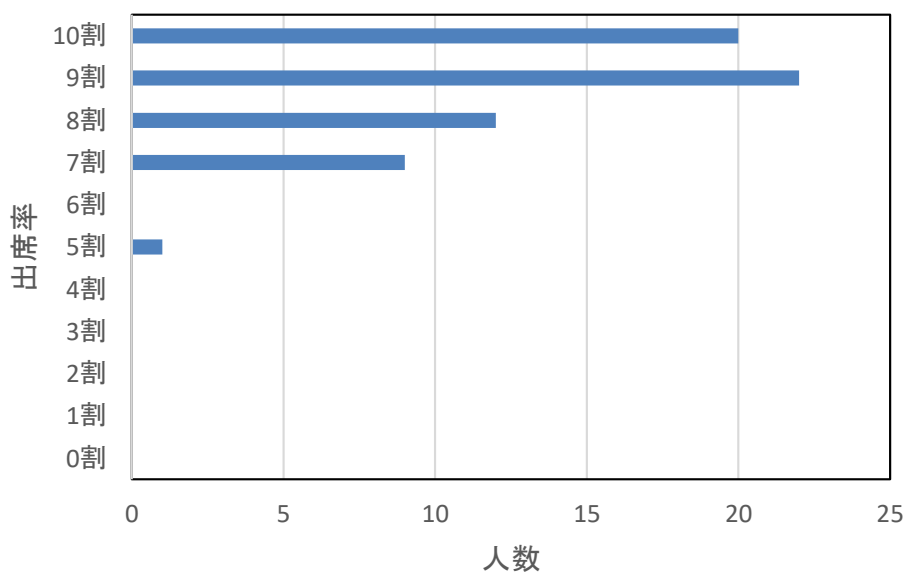


図 3-18. 授業への出席率に対する回答結果 (単位: 割)

図 3-18 によれば、9 割と答えた学生がもっとも多く、全体の 22%を占める。

10割と答えた学生も20%を占め、ほとんどの学生が8割以上と答えている。本調査結果からは、学生が出席率をより強く意識していることが窺える。講義回数の3分の2以上の出席がないと単位が認定されない規則があるので、比較的真面目な学生はこの値を満たすように行動していると推察できる。5割と答えた学生も少数存在しているが、この出席率では単位を取ることは出来ないため、問題を誤解している可能性がある。

**問17 典型的な1週間の平均的な生活時間を、学期中と休暇中の別に教えてください。**

本問は、日常生活において、どういう活動にどの程度の時間を割いているかの回答を求めるものである。具体的な質問項目は以下のとおりである。

- 学期中の生活時間
  - 授業・実験への出席
  - 授業・実験の課題、準備・復習
  - 卒業研究・実験・卒論（該当者のみ）
  - 授業とは関係のない学習（趣味や資格取得等の学習）
  - サークル・クラブ活動
  - アルバイト・仕事
  
- 休暇中
  - 学習
  - サークル・クラブ活動
  - アルバイト・仕事

以上の項目に対する回答選択肢は以下の通りである。

1. 0時間
2. 1—5
3. 6—10
4. 11—15
5. 16—20
6. 21—25
7. 26—30
8. 31時間以上

図 3-19 に学期中の生活時間に関する回答結果の割合を示す。

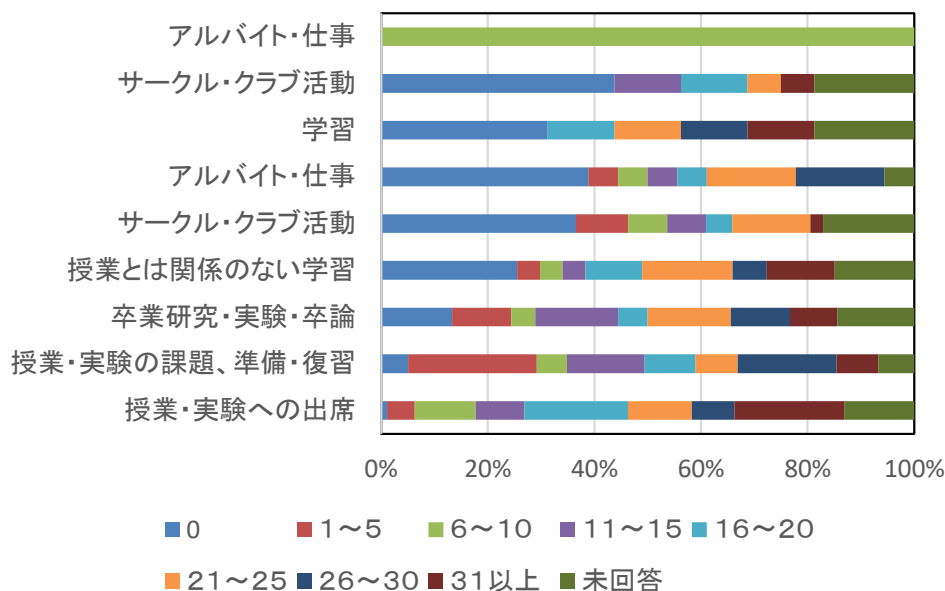


図 3-19. 学期中の生活時間に関する回答

表中，上部 3 項目が休暇中の生活時間，その下が学期中の生活時間である。昨年度同様，今回も授業・実験のための準備・復習の時間が増加している。この傾向自体は望ましいことであるが，学期中だけでなく，休暇中にもアルバイトをしている学生が多い。留学生は特に生活のためにやむを得ずアルバイトをしなければならないことも多いため，授業と予習・復習のための時間を合わせた学習時間の確保が今後の大きな課題となろう。

### 問 18 あなたは本（マンガを除く）を 1 ヶ月に何冊くらい読みますか。

本問は，読書の傾向を答えてもらうものであり，1 ヶ月あたりどの程度の冊数の読書をしているのかを質問している。その結果を図 3-20 に示す。

本項目への回答者 99 名中，44 名，44% (54%) が 0 冊と回答している。昨年度の調査と比べると，その割合はいくぶん，改善してはいるものの，活字離れが危機的状況であることに変わりはない。活字に親しむことは読解力の基礎となるため，このままでは教科書の意味を理解できない学生の増加が容易に予測できる。国語教育などの活動を通じて，学生達が読書をする機会をより多く提供することが望まれ

る。

なお、10冊以上読むと回答した学生が昨年同様5名（5%）存在している。ごく微増ではあるが、2014年度の1%から少しずつ増加傾向ではある。

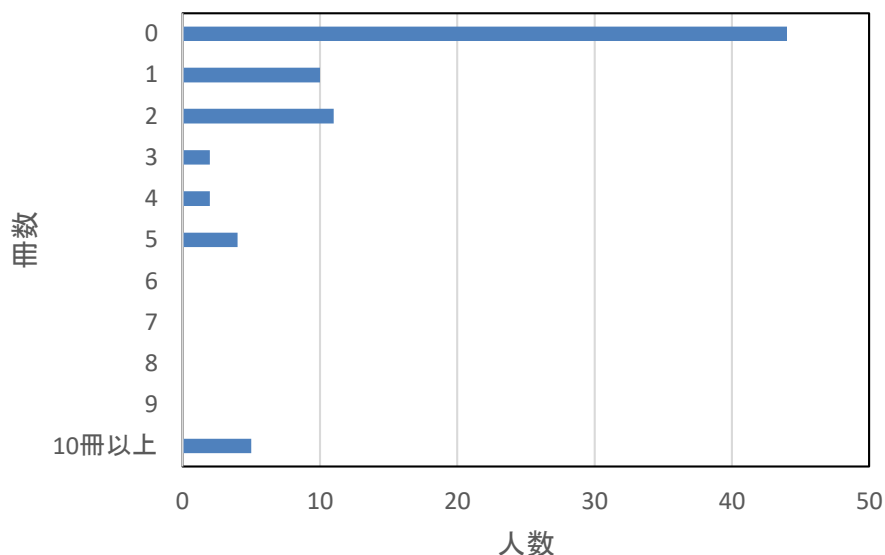


図 3-20. 1ヶ月当たりの読書冊数

### 問 19 あなたは、どのような友達とよく話をしていますか。

本問は学生の友達関係に関する設問であり、どのような人間関係の中で大学生生活を過ごしているのかに関する情報提供を求めている。具体的には次のような4項目が設定されている。

- コミュニケーションと自己発見のともだち
- 基礎ゼミまたは、専門ゼミのともだち
- サークルなどのともだち
- 上記以外のともだち

これらの項目に関して、次の4つの選択肢の中からコミュニケーションの程度を答えるようになっている。

1. ほとんどない
2. あまりない
3. ときどきある
4. よくある

本問に対する回答結果を図 3-21 に示す。最もよく話すのは、「その他のともだ

ち」である。次に多いのは、「コミュニケーションと自己発見のともだち」「サークルなどのともだち」である。学内においては、部活やコミュニケーションと自己発見の友人関係の重要さを示しているものと解される。一方、ゼミのともだちとの人間関係は、コミュニケーションと自己発見やサークルと比較して低い傾向がみられる。

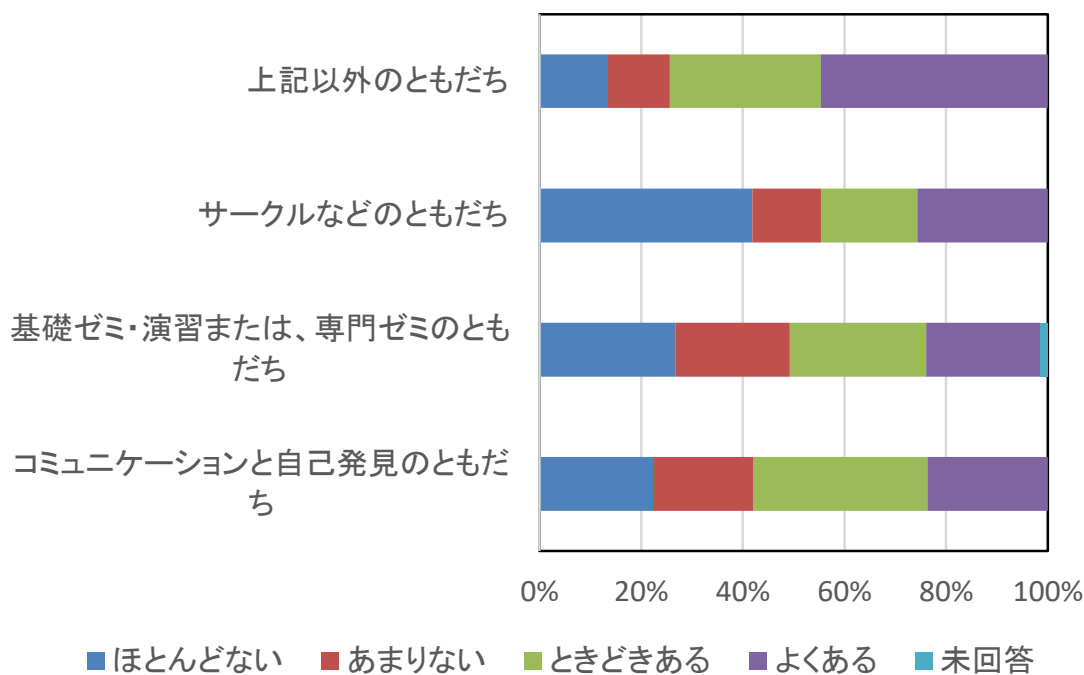


図 3-21. 友達とのコミュニケーションの程度

### 3.5. その他の質問

本問では、以上の質問項目以外で、学生が普段感じていることなどを質問している。

問 20 あなたは、これまでに次のようなことを感じたり思ったりしたことがどのくらいありますか。

本問は、悩み、感じたこと、思っていることに関する追加の質問として 1 2 問を設定している。具体的には以下の通りである。

- 生活に熱意がわからない
- 友達のことでの悩みがある

- 先生のことでの悩みがある
- 授業の内容についていけない
- 授業に興味・関心がわからない
- 進級や卒業ができるか心配だ
- 他の学科・大学に入り直したい
- 大学を辞めたいと思うこともある
- 経済的に勉強を続けることが難しい
- まわりの学生がやる気がない
- やりたいことが見つからない
- 就職活動が思い通りに行かない（4年生以上）

本問では、これらの項目それぞれに対して、以下の4つの選択肢からの回答を求めている。

1. ほとんどない
2. あまりない
3. ときどきある
4. よくある

本問に対する回答結果を図3-22に示す。全体的には、「あまりない」と「ときどきある」の中間前後の値となっている。これらの中で大きな値を取っているのは、「やりたいことが見つからない」や「進級や卒業が出来るか心配だ」、「授業内容についていけない」、「生活に熱意がわからない」などの項目であり、授業に関連した悩みが大きいことと同時に、日常生活における悩みや自分の将来についての悩みなど学生を取り巻く様々な事柄に悩ましさを感じていることが伺えるしかしながら、昨年と比較すると、全体的に深刻さは軽減傾向にあると考えられる。

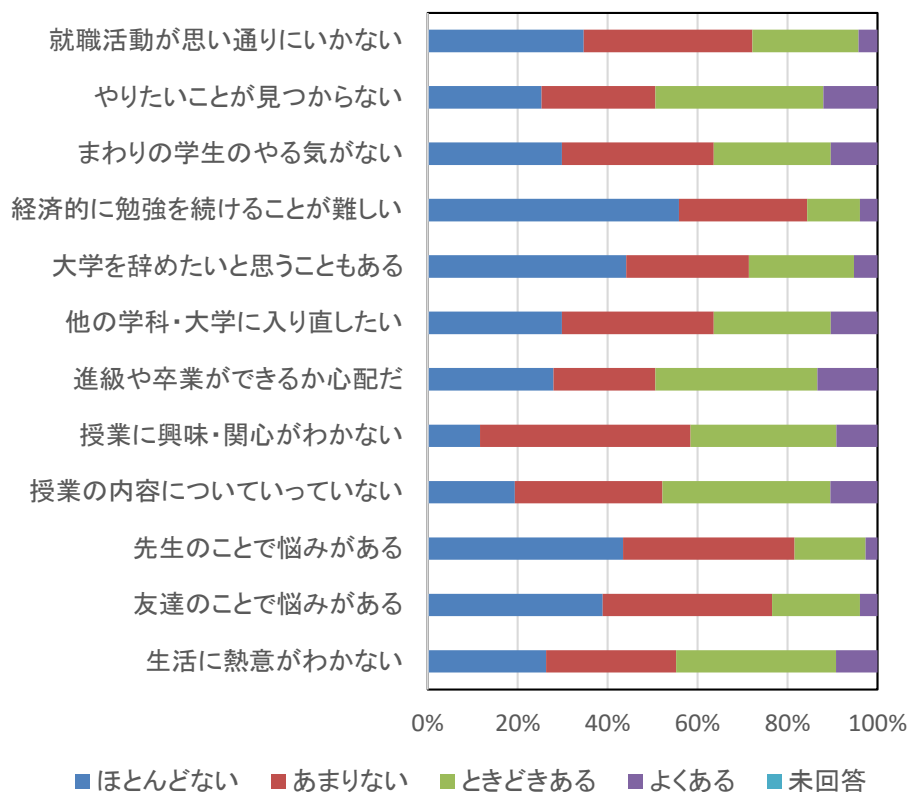


図 3-22. 悩みや思いなどに関する設問への回答結果

問 2 1 次のような点で本学は成功していると思いますか。また将来の本学にとって重要だと思いませんか。

本問は、本学全般に関する学生の認識を問う設問である。本学の現状と将来に分けて評価を求めている。具体的な設問項目は以下のとおりである。

- 専門分野の理論を深く教育する
- 職業にすぐ役立つ教育をおこなう
- 専門の基礎をなす基本的知識や考え方を教育する
- 専門にこだわらない、幅広い教育を行う

これらの設問に対する選択肢は以下の通りである。

現在の評価：

1. 成功していない
2. ある程度成功している
3. 成功している



将来のありかたとして：

1. 重要ではない
2. ある程度重要
3. きわめて重要

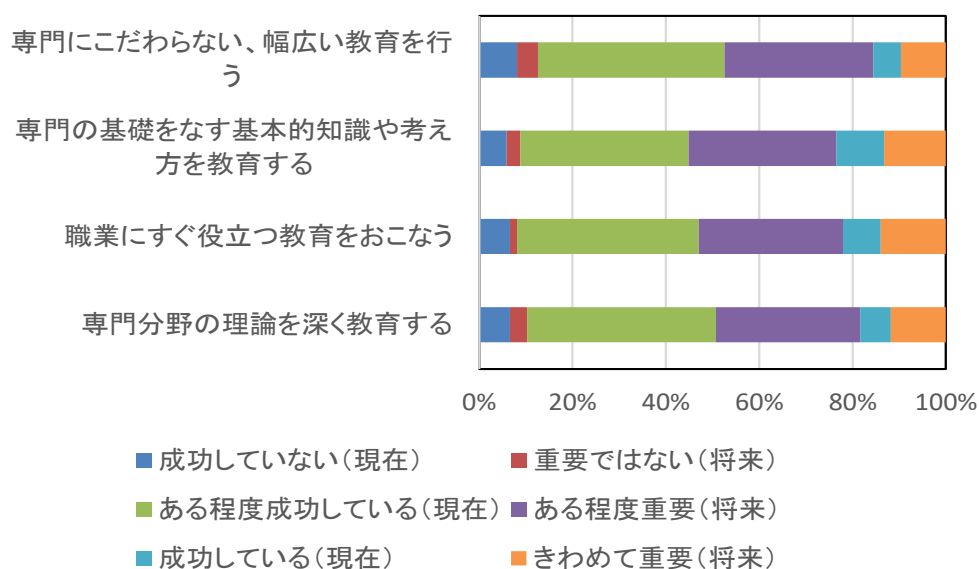


図 3-23. 本学の現在，将来に対する学生の評価

これらの設問に対する回答結果を図 3-23 に示す。現在に関しては，学生が将来に関して重要な項目と認識しているすべての項目について，「ある程度成功している」「成功している」が高い評価となっている。

## 問 2 2 本学の教育について、あなたのご意見を自由に記入してください。

本項目は，本アンケート調査の最後の項目として，自由テキストとして意見を求める設問である。本項目への回答者は「特になし」などを含め，33名(全体の33%)となっている。以下に，回答のいくつかを紹介する。

好意的コメント：

- 他の大学には無い、多くの国の留学生との交流が出来ることはとても良いと思います。
- いろんな国の人たちとふれあうことは良いことと思う。
- 専門教育と就職支援と結びつくのが特によかったと思う。

- 本学の教育は素晴らしい。

否定的コメントや要望：

- カリキュラムの組み方が適当なため、受けたい授業を受けることができない。キャンパスライフがない。買店が閉店するのが早い。
- 時間割の組み方を考えてほしい。そのため受けたい講義が受けられない(単位数が減る)。売店が閉まるのが早い。
- 時間割の組み方を考えてほしい。食堂をもっと広くして欲しい。トイレにウォシュレットがほしい。
- 高校と同じで、この授業内容は社会に出て使うのかと疑問に思う事や、留学生が多いのでそれに合わせすぎて授業の進みが遅いと感じることがあります。
- バスの便がもっと多くなってほしいです。
- 定食の種類が多くなればよいと思う。
- 新しい知識の授業を受ける時の授業スピードがついていけないことがある。
- ネット回線を強くしてほしいです。
- 分かりやすい授業とそうでない授業との差があるように感じた。

このような学生側の意見を参考に、授業内容のより分かりやすい説明方法や学校制度の改革等を行い、学生自身の学ぶ姿勢を育てるような「学びの文化」を醸成していくことが望まれる。

#### 4. まとめ

本稿では、2019年度に実施された本学（九州情報大学）の学生実態調査アンケートへの回答の概要を報告した。本アンケートは全22問からなる。これらの設問は、[1]授業（7問）、[2]大学教育（4問）、[3]進路（4問）、[4]生活（4問）、[5]その他（3問）に分かれている。本報告書では今年度の回答結果を示すとともに、昨年度（2014年度）の結果と比較しつつ、データから様々な示唆を読み取ることを目指した。

未回答の項目もいたるところにあり、また、異常値の記入があるなど、データの正確性には疑問は残るものの、回答全体の傾向を見ることにより、学生の実態の把握や、学生の希望や、教育を中心とした本学の課題のいくつかを知ることができた。

本学としては、このような調査を通じて示唆された学生の期待に応えるべく、今後も努力や工夫を継続していく必要がある。

## 付録

次ページ以降に本アンケート調査「2019 本学学生実態調査」の内容を示す.

## 2019 本学学生実態調査

九州情報大学

以下のアンケートにお答えください。

アンケートは、今後本学の教育システムを、よりよく改善するためのものです。したがって出来る限り、ありのままの事実・感じ方に基づいて各項目の記載・選択することをお願いします。

回答は、あてはまる項目に○または数字を記入してください。

あなたについて

学 科	経営情報学科	情報ネットワーク学科
コース名	コース ※3年生のみ記入	
現在の学年	1年生	3年生
性別・年齢	男	女 (            ) 才
出身地	日本	日本以外(            )

## [1]授業についてお聞きします

問1 大学に入ってから次のような経験はありますか、またそれは有用でしたか。

	経験した				経験して いない
	有用で はない	どちらとも いえない	有用	非常に 有用	
入学時、各学年初め、学期初めの オリエンテーション					
高校での未習科目を学ぶための補修的な科目や 大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目 （大学基礎総合、コミュニケーションと自己発見など）					
就職や将来のキャリアをテーマとした科目 （キャリアデザイン入門、キャリアデザインなど）					
インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）					

問2 あなたにとって**意味があった**と思う授業を思い出してください。

A. それはこれまで受けた授業の何割くらいですか。基礎総合科目、専門教育科目の別にお答えください。

基礎総合科目	専門教育科目
割	割

B. それらの授業にあてはまる特徴はどんなことですか（○はいくつでも）。

基礎総合科目	専門教育科目	
		最先端の研究成果を披露してくれた
		確実に学問の基礎を教えてくれた
		社会や現実との関わりから学問の意義を教えてくれた
		将来に役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた
		資格の取得に役立つ情報やテクニックを教えてくれた
		教え方がうまかった
		自分自身や将来やりたいことを考えるきっかけになった

問3 これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。

講義 (100人以上)	講義 (50人以上100人未満)	講義 (20人以上50人未 満)	講義 (20人未満)	演習・ゼミ	実験・実習

割	割	割	割	割	割
---	---	---	---	---	---

問4 これまで受けた授業では、下のようなことがどれくらいありますか。  
またそれは、必要ですか。

	経験したか				必要か		
	ほとんど なかった	あまり なかった	ある程度 あった	よく あった	必要では ない	ある程度 必要	非常に 必要
授業内容に興味がわくよう工夫されている							
理解がしやすいよう工夫されている							
出席が重視される							
最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される							
授業中に自分の意見や考えを述べる							
グループワークなど、学生が参加する機会がある							

問5 あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか。

	あてはま らない	あまりあて はまらない	ある程度 あてはまる	あて はまる
興味のわからない授業でもきちんと出席する				
なるべく良い成績をとるようにしている				
グループワークやディスカッションに積極的に参加している				
先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている				
必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる				

問6 大学での学び方について、あなたの考えに近いものを選んでください。

A	Aに 近い	やや Aに 近い	やや Bに 近い	Bに 近い	B
授業はとり方があらかじめ決まっている方がよい					授業は自分で好きなようにとりたい
授業の意義や必要性を教えて欲しい					授業の意義や必要性は自分で見出したい
授業の中で必要なことは全て扱って欲しい					授業はきっかけで、後は自分で学びたい
自分のレベルにあった授業をして欲しい					授業は難しくてもチャレンジングな方がいい
専門以外のことも広く学びたい					専門分野を深く学びたい

問7 あなたの成績について教えてください。

優	良	可
割	割	割

## [2]大学教育への評価をうかがいます

問8 次の点で大学の授業は、どのくらい役立っていると思いますか。また自分の実力はどの程度あると思いますか。

	これまでの授業経験は				自分の実力は			
	全く役立っていない	少しは役立っている	役立っている	多に役立っている	不十分	やや不十分	やや十分	多に十分
将来の職業に関連する知識や技能								
専門分野での知識・理解								
専門分野の基礎となるような理論的理解・知識								
論理的に文章を書く力								
人にわかりやすく話す力								
外国語の力								
ものごとを分析的・批判的に考える力								
問題をみつけ、解決方法を考える力								
幅広い知識、ものの見方								

問9 あなたの大学について次の点でどのくらい満足していますか。

	不満	ある程度不満	ある程度満足	満足
授業外での教員との接触(オフィスアワー、ゼミを含む)				
図書館などの学習施設				
実験・実習などのための施設				
就職指導(CDC)				
就職指導(ゼミ教員)				
学習・生活面でのカウンセリング				
学習以外の大学での経験				
大学生活全般				

問10 大学在学中の目標として、どのようなことが重要ですか。

	重要でない	少し重要	ある程度重要	重要	最も重要
将来の仕事に活かせる能力を身につける					
資格試験・公務員試験などに合格する					
専門分野の知識・理解を深める					
広い教養、ものの見方を身につける					
自分の将来の方向を見つける					
社会人になるまでの時間をエンジョイする					
有意義な人間関係を築く					

問11 大学の授業とあなたとの関係についてどう思いますか。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ある程度あてはまる	よくあてはまる
卒業後にやりたいことは決まっている				
大学での授業はやりたいことに密接に関わっている				

授業を通じてやりたいことを見つけない				
--------------------	--	--	--	--

### [3]卒業後の進路

問12 卒業後の進路についてどのような希望をもっています(いました)か。

	大学入学したとき (いくつでも○)	現在の希望 (いくつでも○)	決定している (一つだけ○)
民間企業に就職する			
公務員になる			
教師、税理士、中・上級情報処理技術者などの ある程度高度な専門職につく			
自営など上記以外の形で就職する			
大学院などに進学する(海外含む)			
その他			
決めていない			

問13 就職する上で、次の点はどの程度重要と思いますか。

	重要ではない	ある程度重要	きわめて重要
どの大学(大学院)を出たかということ			
どの分野を専攻したかということ			
個人としての能力			

問14 仕事にどのようなことを望みますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

A	Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い	B
チームで仕事をして成果を分かち合う					個人の努力が成果に結びつく
あらかじめ決められたことを形にする					新しい商品やサービスを生み出す
年齢や経験を重視した給与					個人の業績や能力が大きく影響する給与
残業が多くてもキャリアアップできる					残業が少なく自分の時間が持てる
一つの仕事で専門家になること					いろいろな仕事を幅広く経験できること

問15 大学を卒業後のキャリアについてどう考えていますか。

	そう思わない	ある程度思う	そう思う
すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる			
すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない			
すぐに大学院などに進学する			
就職してから大学院への進学を考える			
資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない			
卒業後すぐには就職しなくてもよい			
最初の就職先にできるだけ長く勤める			
何年かして転職や独立をする			
結婚・出産したら仕事をやめる(女性のみ)			



## [4]日常生活について

問16 今学期は、大学にはどの程度きていますか。また授業にはどれくらい出席していますか。

学期中、大学に来ている日	週に 日	授業への出席率	割
--------------	---------	---------	---

問17 典型的な1週間の平均的な生活時間を、学期中と休暇中の別に教えてください。

		0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
学期中	授業・実験への出席								
	授業・実験の課題、準備・復習								
	卒業研究・実験・卒論（該当者のみ）								
	授業とは関係のない学習(趣味や資格取得等の学習)								
	サークル・クラブ活動								
	アルバイト・仕事								
休暇中	学習								
	サークル・クラブ活動								
	アルバイト・仕事								

問18 あなたは本（マンガを除く）を1ヶ月に何冊くらい読みますか。

読まない	読む場合は	冊
------	-------	---

問19 あなたは、どのような友達とよく話をしていますか。

	ほとんどない	あまりない	ときどきある	よくある
コミュニケーションと自己発見のともだち				
基礎ゼミ・演習または、専門ゼミのともだち				
サークルなどのともだち				
上記以外のともだち				

## [5]最後に

問20 あなたは、これまでに次のようなことを感じたり思ったりしたことがどのくらいありますか。

	ほとんどない	あまりない	ときどきある	よくある
生活に熱意がわかない				
友達のことでの悩みがある				
先生のことでの悩みがある				
授業の内容についていけない				
授業に興味・関心がわかない				
進級や卒業ができるか心配だ				
他の学科・大学に入り直したい				
大学を辞めたいと思うこともある				
経済的に勉強を続けることが難しい				
まわりの学生がやる気がない				
やりたいことが見つからない				
就職活動が思い通りに行かない				

問21 次のような点で本学は成功していると思いますか。また将来の本学にとって重要だと思いますか。

	現在の評価			将来のありかたとして		
	成功していない	ある程度成功している	成功している	重要ではない	ある程度重要	きわめて重要
専門分野の理論を深く教育する						
職業にすぐ役立つ教育をおこなう						
専門の基礎をなす基本的知識や考え方を教育する						
専門にこだわらない、幅広い教育を行う						

問22 本学の教育について、あなたのご意見を自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。